



路地からの学校の風景

ただ、漂うように

●地域と学校の分断

設備的、場所的に優れた学校は地域の核になる可能性を秘めている。しかし多くのそれは、秘めたままで終わってしまい、生かしきれているとはいえない。それは、周辺地域と学校が物理的、意識的にも分断され、学校に対して親近感を持たないのではないだろうか。そして昨今、謳われている多くの問題（セキュリティ、共同体の喪失）もこの事に原因があると考えられる。今回の提案は、地域と学校を繋ぐ建築空間を作ること、お互いの距離感を近づけるものである。

●多様なものが柔らかくつなぐ

～ガラスと植物と音色。そして地域住民と子供たちと～

ガラスで出来たこの建築は、植物と一体となり、柔らかなガラスの緑廊に姿を変える。地域に染み出たこの緑廊は、ガラスの音を奏でながら地域住民を誘い込む。そこへ学校の子供たちが傍に駆け寄って行く。。。

このような多様なモノと人が集まることによって成り立つ空間は、曖昧で柔らかな境界として、多様性を受け入れる空間となり、周辺地域の住民や学校の子供たちが、コミュニケーションを交わす憩いの場となる。

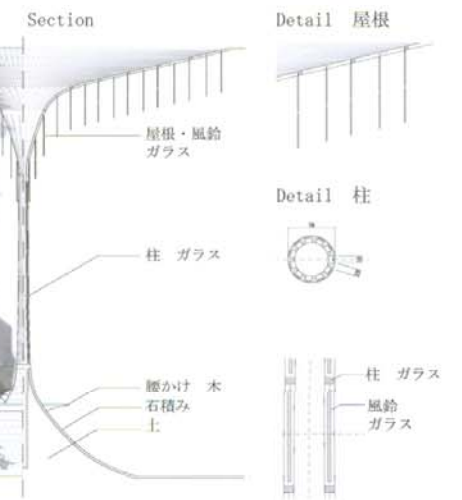
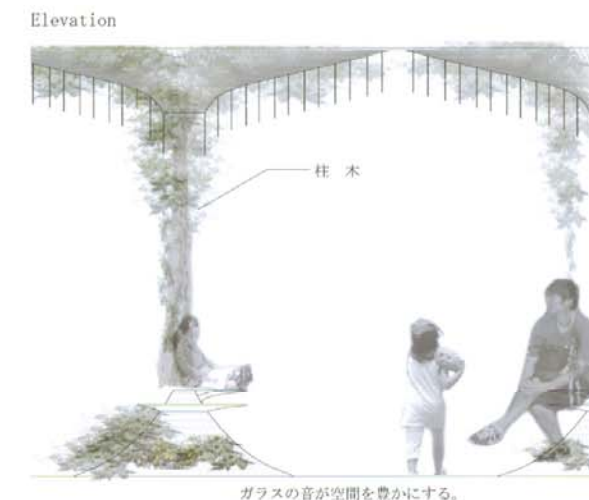
この空間は、現代そして未来に於いて、とても重要な「教育の場」であると考えられる。



グラウンドからの周辺の景色



学校への路地



ガラスの音が空間を豊かにする。